

業界のパイオニアが見た無縁社会の肖像とは?

遺品整理屋は見た!

死臭漂う孤立死、血痕生々しいひきこもり自殺、骨壺が残されたミニ屋敷……

日本初の遺品整理のプロとして、1000件以上の孤立死に立ち会った

業界のパイオニアが見た無縁社会の肖像とは?

スマートインタビュー

吉田太一【キーパース社長】

無縁多死社会の肖像

構成▼高橋繁行



028

遺品整理屋は見た!

め。大きな転換点だったわけです。

そんななかで企業に就職し、会社のために頑張ってきたのが、55～65歳という年齢層。

ところが最近は、そんな彼らが忠誠を尽くし

てきた会社に裏切られることがめずらしくあ

りません。これがもう少し上の世代、65歳以上であれば、高度成長期に給料が倍々ゲームで上って

いったことを知っている。会社に対してもいい思いをしたままリタイヤすることができました。年金も十分あります。でも、その年

たちを上司に持った55～65歳の世代は、先輩

同様、自分たちもこのままうまくリタイヤで生きるという最後の段階になつて、ハシゴを外されてしまった。

ふと気づいてみたら、仕事がない、お金も

もつと年上の高齢者になると、遠く離れた

肉親や親戚も、自然と日常の安否を気遣うようになるのですが、彼らの年齢だと「まだまだまわりから孤立し、息絶えても気づいてもらえないかった場合に、部屋で発生する遺体の腐敗が、遺族や周辺住民づらい思いをさせてしまう現実。そっちのほうこそ問題にすべきじゃないか。孤立状態は、孤独と違った客観的の判断できることであります。そこで、私は孤独の年齢層の方が非常に多いんです。特にその年齢層の男性のおひとりさま、彼らの孤立死が死ではなく、孤立死という言葉を使うようにしています。

孤立死がどれくらい発生しているのか、正確なデータは知りませんが、今こうしている間にも、それの事情をかかえて一人で亡くなつていく方は増え続けています。

死臭漂う孤立死、血痕生々しいひきこもり自殺、骨壺が残されたミニ屋敷……

日本初の遺品整理のプロとして、1000件以上の孤立死に立ち会つた

業界のパイオニアが見た無縁社会の肖像とは?

ショウ。

それで孤独死ではなく「孤立死」といって

みたらどうだろう、と。

立死の現場でお手伝いをさせていただ

いて気がついたんですが、「まだ、お若い

ですね……」という言葉をよく使つんですね。

普通、孤立死というと皆さん、70歳以上の

独居老人を思い浮かべるのではないか

うになりますが、彼らの年齢だと「まだまだまだ丈夫」と思つてしまい、まわりもあまり

気がかけないです」、本人たちも自分の孤立

した現状について、「助けてくれ」と声を発

すことができないわけです。そうしたこと

がこの世代で孤立死が多いことに関係してい

るかもしれません。

もともと、今や孤立死はあらゆる世代で起

こっています。若い世代の孤立死ではこんな

ケースもあります。

伺つた先は、閑静な住宅街の中にあるマン

ションの一室でした。60代のご夫婦と一緒に

なった40代の息子さんが同居させていたんで

すが、お母さんの話によると、亡くなつた息

子さんはひきこもり氣味で、最近は息子の部

屋に入つたことがない、ということでした。

理由を聞くと、「息子に怒られそうで、恐く

部屋に入れなかつた」と。

作業のため部屋に入ると、血だらけの息子

さんの部屋の中は大量のビデオとテレビゲー

ムで占められていました。どうやら息子さん



55～65歳といえば、ちょうど団塊の世代を含み、1970年前後に、社会へ出た人たちです。70年という年がそれ以前と異なるの

確なデータは知りませんが、今こうしている間にも、それの事情をかかえて一人で亡くなつていく方は増え続けています。

死臭漂う孤立死、血痕生々しいひきこもり自殺、骨壺が残されたミニ屋敷……

日本初の遺品整理のプロとして、1000件以上の孤立死に立ち会つた

業界のパイオニアが見た無縁社会の肖像とは?

署名をお願いします。

「えっ！ そんなにかかるんですか！ そんなの払えませんよ。本当はここに来るのさえイヤだつたんですから」

故人は65歳の女性。死後3週間で発見されました』』(『おひこりやまとわだいじょうぶ』)
（ボカラ社）より
こんな書き出しで始まるのは、ある女性の
おひとりさまの孤立死のケースだ。孤立死し
た女性は、一度も結婚することなく、長年、
水商売をしていたという。部屋はきれいに整
理整顿されていて乱れはなかったが、死後3
週間経つて発見されたため、強烈な死臭が充
満していたといふ。

が加わる場合、「一般的の遺品整理代金の1・5倍(自安として60万~80万円)の費用」に加え、死後除去作業として30~40万円が必要だという。孤立死の遺品整理は高くつく。

このケースでも、「姉は18歳で家を出でたらぽんと実家に帰らず、親のことを押し付け、酒ばかり飲んでいたが、お金が足りないときだけ母に泣きついてきて……いつかは、んなことになるんじゃないかと思つていた」と言つて迷惑がる弟に、吉田さんは「でもお姉さんも窮しかつたんだと思いますよ」と、タンスの上にあつた古い貴重品と弟の3人で行った初詣の写真が飾られた写真立てを手渡し、作業に取り掛かる。

その後、死臭のために身のすくむような庄

大丈夫だらうと思われがちでし、また、そういうおひとりさまの女性はプライドも高く、孤立死しやすい男性同様に、自分の孤立した状況に対して「助けて」と声をあげにくく、いということがあると思うんでです。

これはもちろん、女性の孤立死に限ったことではありませんが、遺品整理の仕事が難しいのは、残された遺族は私たちの作業が遺品整理だということ自体、伏せておきたいといふことなんですね。特に自殺などの現場になると、隠しておきたいといふ遺族心理が働くほど、

もちろん、変死のような現象でなくとも、一般に遺品整理を業者に頼みづらいということもあつたと思います。亡くなつた親の部屋に残された遺品の整理をするのは、血のつなぎます。

A black and white photograph showing a cluttered indoor space. In the foreground, a large, dark, semi-transparent plastic bag is visible. Behind it, there's a dark sofa or chair, a small round table with a lamp, and various household items like a refrigerator, a microwave, and boxes. The room appears to be a basement or a storage area.

母からの手紙には「あなたのことがだけが心配です。お酒は飲みすぎる」と体に悪いので控えめにしなさいね」とあった。故人のノートには「お母さん 手紙ありがとう、ごめんね」と書いてあったのだ。

吉田さんが「おせっかいかもしれないが、それだけは身内にだけお見せしたい」と思い、手紙とノートを弟に手渡すと、弟はノートを自ら裏返しになり、「うう」と泣いた。

「このノートを見て、今までの姉に対する嫌な気持ちがなくなりました。寂しかったんだでしょうね。姉も……。私がもう少し積極的

にで嫌児子と76年挂心で

かた子としておなじくヨーロッパ、としま日本体ですね。

キーパーズの果たした社会的な役割がもしかするとそれは、そういう遺品整理に対する遺族の後ろめたさをなくしたことなどが挙げられるんじゃないかなと思います。

うちではかなり早くからホームページを持ち、遺品整理というキーワードを世間に広めてしましました。今では、一遺品整理屋に頼んだ」と言つても、親戚のうるさ型のオッチャマンに対しても後ろめたさを感じなくていい。メディアで孤立死が取り沙汰されることが多くなつた昨今では、逆に万々、自分が孤立死した場合のことを考えて、遺品整理の事前予約をする人も増えてきています。依頼されるのは、必ずしも「高齢の方に限られません」。

遺産整理を事前予約する時代

連絡をとつていれば、こんなことにならなかつたのに……」

大丈夫だらうと思われがちでし、また、そういうおひとりさまの女性はプライドも高く、孤立死しやすい男性同様に、自分の孤立した状況に対して「助け」と声をあげにくくいことがあると思うんです。

これはもちろん、女性の孤立死に限ったことではありませんが、遺品整理の仕事が難しかったのは、残された遺族は、私たちの作業が遺品整理だということ自体、伏せておきたいといふことです。特に自殺などの現場にならば、隠しておきたいといふ遺族心理が働くことがあります。

もちろん、変死のような現象でなくとも、一般に遺品整理を業者に頼みづらいというところもあつたと思います。亡くなつた親の部屋に残された遺品の整理をするのは、血のつな



か、たゞとしてあたしはやうどい世間

かに手とをしてあたう」といふべきで、としも世間で
キーパーズの果たした社会的な役割がもし
あるとすれば、そういう遺品整理に対する道
族の後ろめたさをなくしたことが挙げられる
んじやないかなと思います。
うちではかなり早くからホームページを持
ち、遺品整理というキーワードを世間に広め
てきました。今では、「遺品整理屋に頼ん
だ」と言つても、親戚のうるさ型のオッチャ
ンに対しても後ろめたさを感じなくなつていい。
メディアで孤立死が取り沙汰されることが
多くなつた昨今では、逆に万一、自分が孤立
死した場合のことを考えて、遺品整理の事前
予約をする人も増えてきています。依頼され
るのは、必ずしも高齢の方に限られませぬ。

やったときの話なんですが、日本と米国の太平洋戦争を戦って生き残った人たち同士でソフトボールの親善試合を行って、戦争へのしのぎを持った老人たちがそれを通じて、同じ人間同士だったんだと抱き合い、打ち解けたことがあります。

と、うちの仕事を減らすようなのですけど
ね（笑）。

事前予約する理由を尋ねると、「自分には子がいないし、万一のとき兄弟や親戚の甥や姪に迷惑をかけたくない。それでまた元気なうちに申し込みをしたい」というんです。

遺品整理の事前予約の件数はこれまでに100件を越えています。なかには電話で相談して、「よくわかりました」。遺言に『私の遺品整理はキーバーサさん』って書いてくれた方もいる(笑)。こうした方々は、冷静に自分の将来を見通していくより死を明確に意識されたうえで「予約したい」とおっしゃっているんです。

まあ、逆にいえば、残りの300件は孤立死ということになりますから、取り扱い件数でいえば多いほうかもしれません。

遺品整理の仕事を通して、なぜ孤立死するんだらうと原因を考えることもありますが、これは以前、キーバースの支援で、ハワイ

孤立死がどれくらい増えているのか、正面などころ、よくわかりません。ただ、一人住まいのワンルームマンションやコンビニが増えているということを考えれば、世間から孤立して生活をする人が増えているのも間違いないでしょう。キーバースは現在、年間1~1500件の販売実績を誇りますが、そり

043

042

case 03

ニユータウンが
ゴーストタウン化する日

孤独死が相次ぎ、スマートタウン化する「ニュータウン」かつての夢の町で何が起つて居るのか?

若年化する孤独死 明日は我が身

「孤独死は迷惑です。だから40代以上の独身には物件を貸したくありません」——インター
ネットの掲示板に、こんなスレッドがある。孤独死の現象をルボする新聞記事にあった「大手
賃貸業者的一部には、「40代以上の単身者に物件を貸し済る傾向がある」という一文を引用した
ものだ。見出しからしてスレッドを立てたのは、どうやら不動産関係者らしい。

引きする損害賠償として数百万円を要求したという。こうした事例を踏まえ、孤獨死予備軍の40代シングルを避ける動きが不動産業界に広がっているようだ。

た。これまで「孤独死」という言葉を新聞記事で散見することはあっても、都会の片隅でひとり起きた外的事件であったり、震災後の仮設住宅といった特殊な環境下で起きるケースだという印象が強かった。しかし、冒頭のスレッドを見て、働き盛りの孤独死が身近で頻繁に起きているという現実を目の前に突き付けられた気がした。筆者自身、40代後半で独身、賃貸マンション暮らしてある。孤独死は他人事ではない。

孤独死は1000世帯に1件!?

では、現状で「孤独死」などのくらい発生しているのだろうか。全国的な統計はないものの、この手のレポートでよく引き合に出されるのが東京都監査医療院の統計である。医師の診察を受ければ死んでしまうケースなど、東京23区内で発生した不自然死を検査・解剖した人數で、これが孤独死と見なされる。そのうち一人暮らしの高齢者が自宅で死んだ件数の推移を示したのが図①だ。2002年の1300件台から08年の2200件台へ、ほぼ右肩上がりで増加していくことがわかる。64歳以下の年齢層を含めた件数を高齢者の割合から逆算すると、約3920